

フィールド風 (現場)からの

宮田守男

日本は伝統的に国際公約をしたことについては、歯を食いしばって実現する国というのが国際評価だが、コロナ感染の非常事態の

中バラリンピックが開幕した。当選した開会式の入場チケットが無駄になってしまったのが残念だが、無事終了してほしいと願っている。

「デルタ株」の大きな脅威が世界から伝わってくる。中東呼吸器症候群や重症急性呼吸器症候群、エボラ出血熱、一般的な風邪、季節性のインフルエンザ、天然痘を引き起こすウイルスよりも感染力が強いとの情報だ。

また感染した場合は従来株に比べ重篤化や入院のリスクが高いが、入院できないとの実情が不安にさせる。首都圏に住む人からは「長野県内は、まだ入院可能と聞くので、この際移住して喜ばした方が安心だ」との笑えない内容だが、今後増々首都圏脱出気運が高まる気がしてならない。特に日本人は「みんなマスクを着用して人との

コロナ感染拡大は災害非常時と捉えるべきだ

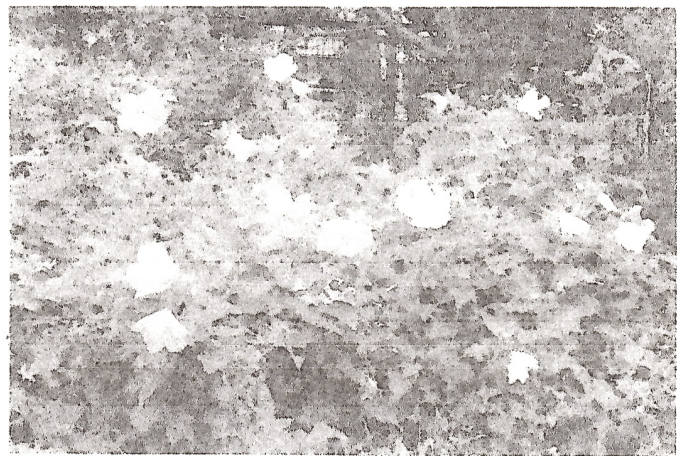
思考が、今後の地域づくりへの一考にすべきなのだろう。ワクチン接種済みの人でも、未接種の人と同程度にウイルスに感染する可能性が強いとの情報から、今後もマスクを着用して人との

距離を取るよう心掛けよう。有名なジョークに、沈む舟から飛び込めと指示する際、アメリカ人には「飛び込めば英雄だ」、ドイツ人には「船の規則です」、日本人には「みんな飛び込んでいま」と。都会脱出する

水田を心配そうに見守る農業関係者は「稲の開花時期の日差しが少ないが生育に影響しないか心配だ。『そばの開花時期に日差しが少

ない影響は、生育に大きな影響が出てしまう」「秋野菜の適期播種ができない」と切実な声。「天下のために甘雨を降らし、霧雨(長雨)を止める」という神が祭られた神社では、奈良時代から朝廷の祈願で、雨乞いとは黒馬、止雨には白馬の絵馬が奉納されたと毎日新聞コラム余祿さんが伝えた。

白馬の絵馬を奉納する事で禍から守られるなら、地名の「白馬」を活かした提案ができたらと思ってしまう。「五風十雨との教えがある」五日に一度、



管理容易な「芙蓉」天候不順な今年も「花」を楽しむ事ができる

風が吹き、10日に一度雨が降ると作物が良く育ち、そのくらいが丁度いいと。異常気象が起きない取り組みが強化される事を祈るばかりだ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)